

辺 清音

1. 事業実施の目的

本計画の目的は、博士研究の一環として、主要な調査対象である神戸市南京町の茶餐厅 G¹ の香港への買い出しについて参与観察を行うことである。

2. 実施場所

香港

3. 実施期日

平成 29 年 9 月 4 日（月）から 9 月 7 日（木）

4. 成果報告

●事業の概要

【調査活動の目的と調査対象】

本調査は、南京町のある茶餐厅 G の年に一回の香港への買い出しに同行して参与観察を行うことである。本調査の目的は、以下の 3 点に要約できる。

1. 茶餐厅 G の香港への買い出しの内容と具体的な流れを記録する。
2. 店主と従業員のトランスナショナルな移動によってモノと情報の移行を追跡する。
3. 彼らが買い物、食をめぐる情報収集から、どのようなモノと情報を選んで日本へと運び、南京町での商売に独自性を出して利益を生み出しているのかについて調査を行う。

茶餐厅 G は台湾パスポートを持つ広東出身の華僑三世 S 氏が南京町で経営している店舗である。茶餐厅 G の前例は 1984 年に南京町で開店された広東料理店 G である。2012 年に S 氏が病気になり、やむを得ず広東料理店 G を閉店した。その 2 年後、無事回復した S 氏は、自分の華僑としての出身地である香港の庶民的な食文化を日本で再現して茶餐厅 G を開店した。茶餐厅 G の真正性を守るため、S 氏は年に一度に定例的に香港へ買い出しをしている。今年 S 氏夫婦（S 氏の妻は茶餐厅 G のホールサービス、杏仁豆腐というデザート調理を担当している）は共に香港へ行った。香港への買い出しについて、彼らの目的は、1) 店舗の食材や調理器具の購入にあたる。2) 自らの店舗の改善を行うために、本場香港での茶餐厅や飲茶レストランなどで情報収集にあたる。

¹ 茶餐厅とは、洋食も中華料理も扱い、安くて便利な食堂のような香港式ファーストフード店である。

【実施内容】

日期	場所	仕入れ内容	食体験内容
9月4日	泊まるホテル近辺の茶餐厅		ワンタン麺、水餃子 麺など
	中華レストラン		中華料理コース
9月5日	調理器具専門店	調理用具	
	香港式焼肉専門店		焼き豚、焼き鳥、蒸し 鶏など
	海鮮乾物専門店	アワビの乾物、腸詰 めなど	
	おかゆ専門店		おかゆ
	ホテル近辺のスーパーマーケット	栄華月餅、寿眉茶	
9月6日	燕の巣専門店	ツバメの巣	
	飲茶レストラン		飲茶
	香港式スイーツレストラン		香港式スイーツ
9月7日	調理器具専門店	調理道具	
	ホテル	香港麺（香港製生ラ ーメン）を受け取る	
	飲茶レストラン		飲茶

1) 食材、調理器具の仕入れについて。

今回の食材の仕入れについて、S氏夫婦はまずS氏の両親の代から利用してきた2店舗とスーパーマーケットで、9月5、6、7日に海鮮と肉類の乾物、月餅を仕入れた。また、香港へ行く前に向こうの友人に依頼して注文した香港麺を予定通りに仕入れたが、香港式ミルクティーの紅茶茶葉がダージリンのストライキの影響で品切れのため、仕入れできなかった。

調理道具について、S氏夫婦は9月5日と7日に、S氏の母親が愛用した1つの専門店でまとめて仕入れた。

2) 香港本場での食をめぐる情報収集について。

香港において、S氏夫婦は茶餐厅1軒、飲茶レストラン2軒、中華料理店1軒、お粥専門店1軒、香港式焼肉専門店1軒と香港式スイーツレストランで食文化の体験をした。

その際に、茶餐厅Gとのメニューや味を比較し、新しい商品の開発に関する先端的な情報をサーチした。

報告者は上記の彼等の活動に参加観察し、S氏夫婦が店舗や商品に対する選択の過程を記録した。その中に、短時間の聞き取り調査も行ってより深いデータを収集した。

●本事業の実施によって得られた成果

今回は南京町で茶餐厅Gを経営しているS氏夫婦と同行し、彼らの香港への買い出しと最先端の食をめぐる情報収集について、参加観察して聞き取り調査を行った。

1) 現地調査によって、茶餐厅Gの買い出しと食文化体験の内容を詳しく記述することができた。S氏夫婦が留意した茶餐厅Gの関連する商品や食品、情報を確認した。また、これらの商品や食品、情報の中に、どれがいかなる理由でS氏夫婦によって選択され、日本の茶餐厅Gで利用される過程を明らかにした。

2) S氏が親の代から結ばれた商売の信頼関係を活かして順調に仕入れることを完成するプロセスを明らかにした。今回の香港への仕入れは基本的にS氏の計画通りで実施した。これは長年で培った信頼できる商売関係であるから。しかし一方で、今回に香港でダージリン産の紅茶のブレンド品が仕入れできなかったことから、このグローバリゼーション時代において、人々は思いつかない場所の出来事から影響を受けることがわかった。

今回の調査で収集したデータは、博士論文を構成する重要な一環である。また、今回のデータの一部は、2017年『総研大文化科学研究』へ投稿する予定である。

●本事業について

今回の文化科学研究科学生派遣事業を受けて、主要な調査対象と同行して香港で現地調査を実施した。博士論文の研究に向けて、主要な調査地だけでなく、現地の人々と一緒に移動してデータを収集するのは重要である。しかし、調査対象と同行することは学生の経済的な負担になることも考えられる。このような現状において、学生への旅費支援体制としての学生派遣事業は本学の大きな魅力の一つであり、とても有益な事業である。このようなことにしたがって、今後もこのような事業が継続されることを希望している。